

# お酒と女は二丁目まで

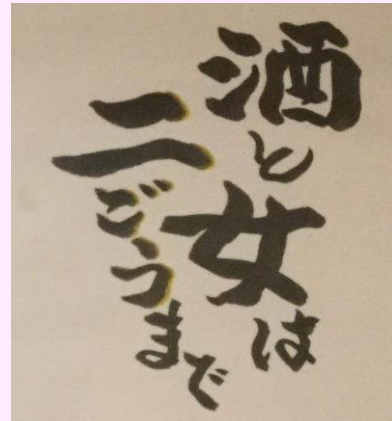
誤字脱字はご容赦下さいませ。

## 裏話し



先日の事ですが、豊業界での研修会が宮城県にて有りました。その研修会も終えていよいよお楽しみ会の宴会でございます。一日中、研修で缶詰状態が続き、やっと解放され宴会場へ足取り軽ろやかに向かう社長達であったが謎めいた居酒屋に到着するうちに、メニューを見て「えっ!」「これ食うの?」なんとそのメニューに載っていた料理が「蛙の唐揚げ」「雀の姿焼き」蛙の唐揚げは鶏肉の様な食感、雀の姿焼きを食う勇氣は持ち合わせておりませんでした。食った相棒が言うには、美味だそうなんです。

始末。その便所スリッパを履いて今度私がトイレへ。その壁に貼ってある筆文字が一捻りや二捻りされ実に上手い。誰が言ったのかそれとも店主の思い付きで書いたのかわかりませんが「酒と女は二丁目まで」妙に説得力を感じるこの言葉について上手い!とトイレで声を上げてしまった。この張りの紙の事を言うと、それは是非見なくちゃと言いつつ、紙の事を止めて一斉にトイレに。「上手い!」「座布団一枚」などと奇声を上げながら席に着き、「酒は二合以上は飲むぞ!」「女はかあちゃん一人で十分!」「後が怖えから!」と右手を上げながら宣言する男たちです。その後、ネオンを求めて互いに肩を組み千鳥足で路地裏に消えていきました。尚、私たちは反社会勢力の様な集団では御座いません、明日の豊業界の発展の日々努力お惜しまない善良な豊屋集団でございます。念の為に



## 私にお迎えが来た

最近感じる事なんですが、ある物を言う時に「お」を付けて呼ぶのを聞きます。例えば箸をお箸とか、車をお車、といったように何にでも「お」を付けて言うようになったのは何時からなのでしょう。逆に「お」を付けるのと落ち着かないのも有りますね。私の仕事は豊屋さん、この豊に「お」を付けるとお豊、止してくれよ。お豊なんて言われたら背筋がブルブルと風邪を惹きそうです。昨年の事、打合せでお客様宅へお伺いした際に起きた爆笑珍事、もうこれは思い出しただけで笑いが止まりません。まるでライブで漫才を見ているような臨場感溢れる出来事でございます。打合せをしておりますと外で車が停まり「ボタン」とドアが開まる音が聞こえてきました。すると、奥様が「お婆さん、やっと、お迎えのようですよ。ここから展開がまるで渡る世間は鬼ばかりのドラマのような展開、嫁とお姑さんの関係。

お婆ちゃんは曰く「やだよ、そんなに私が邪魔なのかい、「や」と私にも迎えが来たか。「あー嫌だ、長生きはするもんじゃないね。「あー嫌だ」「あー嫌だ」



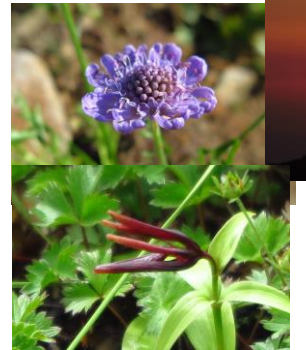
誤解を招かないように言いますと、この奥様とお婆さんは実に仲のよい関係でございますが私が居たために普段なら「婆ちゃん、迎えの車来た。」と言うところを無理して丁寧な「お迎えが来た。」と言ったのが事の真相のようです。あんなに1年、「お迎えが」と言っていました。お婆ちゃんはまだまだ元気にサロン化した病院にせつせと楽しく通う毎日と聞きました。これじゃあ自分の間、本当の意味で「お迎え」の出番も無さそうですね。

決して自慢できない、 豊屋さんのバックヤードを赤裸々に!!

## 霊峰白山 (石川県) 酒三昧の山歩き



例年の事ですがお盆休暇を山で過ごすのが何よりの楽しみの一つでございます。当初今年の山行の予定は北アルプスの縦走でしたが台風10号の影響で断念しました、それでも何処か影響の無い山を探したところ、強風の影響が無く晴れ間も期待できるのが白山であることが解り、急遽変更して石川県へと高速道路を走りました。片道約500km、3人のドライバーで交代しながらハンドルを握りましたが運転を終えた順からビールが飲める約束なので我先にと私が最初のドライバー役、深夜に登山口に到着、明日の天気は晴れを信じてお天気祭りの開始、もちろんビール祭りです。午前5時入山開始辺りはまだ薄暗いが足元はどうか確認出来る。徐々に明るくなるが天候は曇り、やがて山荘へ到着、ここで天候の回復を待ちながら天気祭りの二次会よく飲む私達ですね。雲の間から青空が見え隠れするようになり、山頂へ登頂。徐々に青空の広がりが増してゆく。日頃の行いのがよほど良いのでしようそれとも天気祭りの賜物なのでしょう。時間の経過と共に広がる広い青空



天候が回復し予定ルートを進みます。山頂直下には無数の火口湖が点在しておりますがその色は火口湖特有エメラルドグリーン。場所により雪渓が残り雪解けが終わって間もない所には早春の花々が一斉に咲き誇っております。その一方では夏の花、そして秋の花と高山植物が豊富な山でもあります。日本海へ沈む夕日を見送り明日の天気祭りの開催です。今夜の宿は白山の山荘、大きな施設で食事提供も提供して頂けるのは有難いです。明日は早出、早々に就寝



翌朝は朝日を背に下山、足元に珍しいクロユリ、マツムシソウなど数多く咲いておりました



## 豊職人に昼が来たー

月に一度だけチョット贅沢な食事をしようと思つたので、行先は時にはラーメン屋またある時は定食屋、またまたある時は蕎麦屋とその時その時に決めますが、お伺いするお店はどれも吉田屋店のお得意様でございます。さて、今日は何処へ行きましょうか。今回ご紹介するのは須賀川市下宿で営業するあさひ家さん、暖簾をくぐり店内に入るといらっしやいませと元気な声が響いてきます。込み合うお昼時



大盛の野菜が魅力 塩タンメン

ですがどうか1席を確保、メニューは既に決めておりましたので着座と同時に塩タンメンをオーダー。待ち時間もさほどかからなく来ました。縮れ太麺に野菜が豊富。お冷を飲みながらつついっついスープを最後まで飲み干してしまつた。この店主のこだわりなのでしようか、予定のスープが無くなり次第営業終了です。

## 筋肉痛

普段、使わない筋肉を酷使すると「あー、痛ててて、「なんでこんなに痛えの」「おー痛え」とぼやくこと有りませんか。ところがこの筋肉痛って奴はなかなかユニークな奴で若い頃は翌日にお出まし、年齢を重ねるとちよいと鈍くなつたんでしようか、翌々日あたりには遠慮がちにお出まします。さて、つい先日の事、久しぶりに登山へ出かけて参りました。向かった先は石川県と岐阜県に跨る霊峰白山。日本海より聳え立つ山容は山を愛するものを虜にしてしまします。と格好つけても中高年登山者でございます。ただ一口に中高年登山者と言えども四十年かかってやつの思いでなつた中高年登山者でございます。普段から豊を担いで高層階の住居へ上がり下がりしておりますので足腰の鍛錬はしているつもりですが、雨上がり登山道は滑る、おまけにザックの荷物は多数の缶ビール、重い何の。バランスを崩さないように変なところに力が入ってしまう。山頂で旨いビールを飲みたさに負け担ぐビールの重たさを恨む私でした。今回の登山は尾根ルートと比較的楽なコースでしたが雨で滑る岩場に少々こすり、これが筋肉痛の原因になつたに違いありません。登山から帰った翌朝からふくらはぎから太ももにかけて痛いのなんの、もうこれは笑うしかありませんよ。「痛ててて!」階段を降りる時にも、トイレで腰を下ろす時も「あー、痛ててて!」変なものだつて翌日に筋肉痛が出たもの。